

「健康長寿達成を支える老年医学推進5か年計画」に基づく取り組み

老年医学会の活動指針として2018年「健康長寿達成を支える老年医学推進5か年計画」を策定。認知症は重点項目「認知症への効果的な早期介入と社会的施策の推進」として取り上げられた。2021年5か年計画に関して自己評価を実施。認知症の取り組みについては順調な進捗とした。2024年「第二次健康長寿達成を支える老年医学推進5か年計画」を開始。認知症は引き続き重点項目とした。

III 認知症への効果的な早期介入と社会的施策の推進

- 1) 認知症およびMCIの早期発見ならびにリスク軽減・予防に関する取り組みの社会実装
 - 多因子介入（J-MINT研究等）の社会実装、保健事業・介護予防との連携、MCIハンドブックの内容を実地（保健師、市民）に導入
 - Cognitive reserve（認知予備能）に関する研究を推進し、認知症予防に応用
- 2) 認知症に対する社会全体の理解を深め、尊厳ある暮らしを可能にする社会環境の整備
 - 認知症基本法に基づく 共生社会の実現を目指した国、地方自治体における仕組みづくりへの協力
 - 診断後支援、アルツハイマー病治療薬導入後の認知症診療のあり方について検討
 - あいちオレンジタウン、高島平ここからステーション、秋田モデルなどの認知症共生モデル地域を全国的に展開（厚生労働省老健局地域認知症対策室と連携して、各自治体と協調）
- 3) ICT・IoT・ロボット技術・AIなどの先端技術を用いた認知症への支援の推進
 - Gerontechnologyの技術開発と臨床応用：表情認識、AI画像診断、チャットボットなど

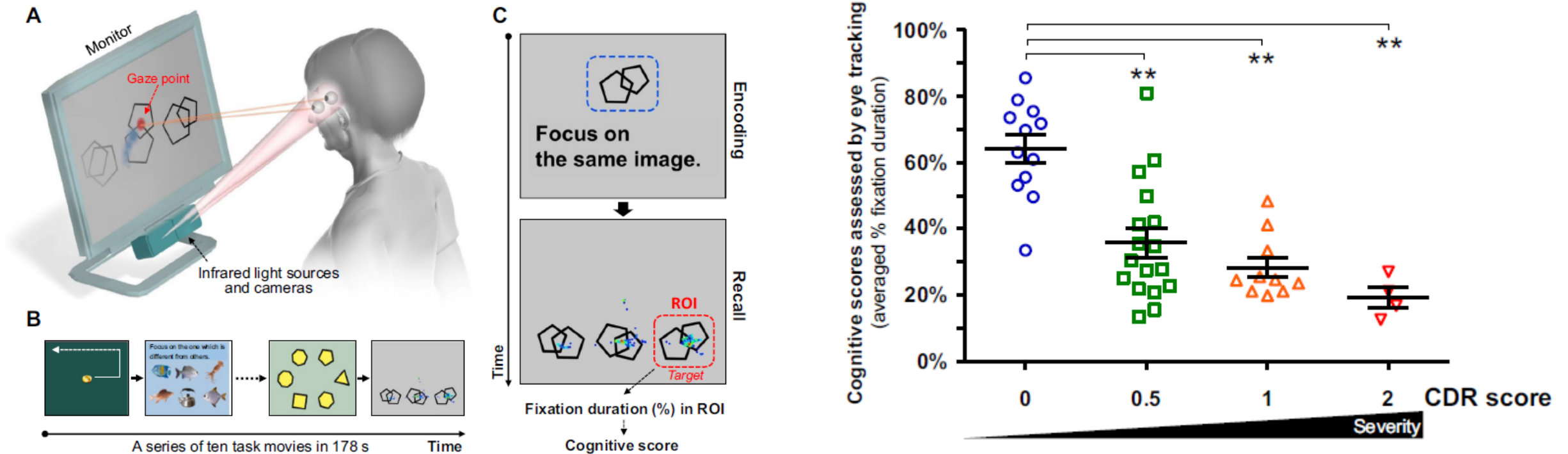
スライド2

スライド5

スライド3,4

認知症の診療を支援する神経心理検査アプリとして日本初承認

アイトラッキング法を用いて、約3分で正常（CDR 0）と軽度認知障害以上（CDR 0.5～）の認知機能低下を鑑別するアプリ



Sci Rep. 2019 Sep 10;9(1):12932. Novel Method for Rapid Assessment of Cognitive Impairment Using High-Performance Eye-Tracking Technology. Oyama A, Takeda S, Ito Y, Nakajima T, Takami Y, Takeya Y, Yamamoto K, Sugimoto K, Shimizu H, Shimamura M, Katayama T, Rakugi H, Morishita R.より

大阪大学老年・総合内科学を中心としたチームの研究

大仙市協和地域、にかほ市北部・南部を対象としたアンケート調査

▼安心・安全に外出し、活動・活躍するために必要だと考えられる高齢者の声（自由回答から抜粋）

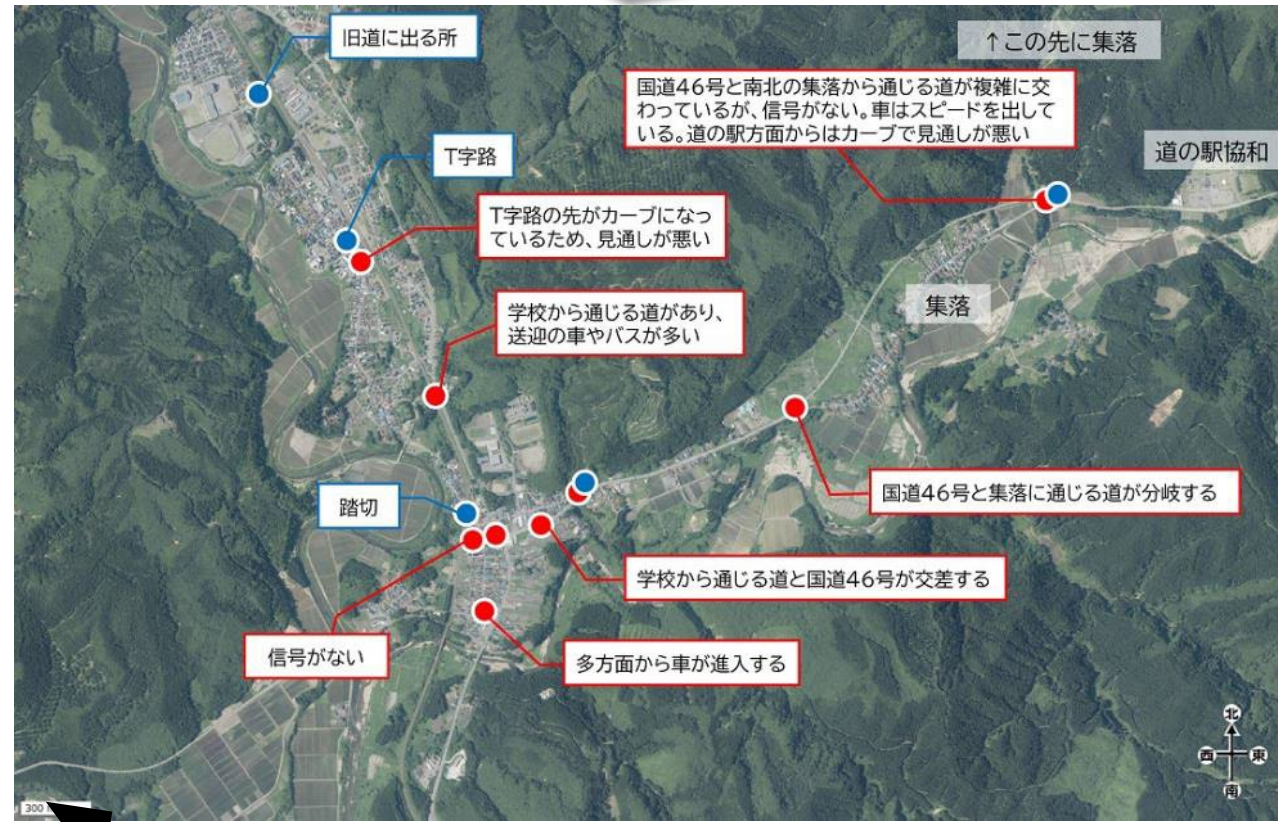
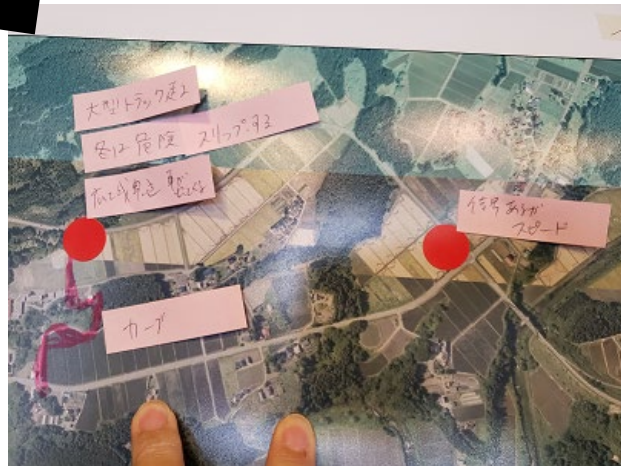
- 80代男性。今のところ車の運転も出来るが、妻が認知症の様な症状があり心配。免許更新でなにがなんでも更新しないと、私と妻の病院通い、買い物は一切出来ない状態となる。
- 高齢ドライバーの交通事故が社会問題になっているが、健康状態や運転機能の自己チェックはやってみたい。
- 車を安全に運転できるうちはよいが、それが叶わなくなった時に選べる交通手段が少ない。運転できても冬道の恐ろしさは命がけ。電車の本数は少なく運休もしばしば、バスは高い。
- 時にはいろいろな分野の研修も受けたいと思うが、自分一人で会場に足を運ぶのは億劫で交通などのことを考えると二の足を踏んでしまう。

健康長寿ドライバー応援プロジェクト概要

▼安全運転の知識とコツを「見える化」しよう！

ハザードマップの作製

地域の高齢者が自らの目線で感じた危険箇所
＝地域の財産



地図画像出典：地理院地図 / GSI Maps

レカネマブ(レケンビ)とドナネマブ(ケサンラ)の承認と処方



2023年12月薬価収載



2024年11月薬価収載

【投与施設に関する要件（抜粋）】

アルツハイマー病の診療に関連する以下のいずれかの学会の専門医の認定を有していること。

- ・ 日本神経学会
- ・ 日本老年医学会
- ・ 日本精神神経学会
- ・ 日本脳神経外科学会

認知機能(CDR)の時間経過

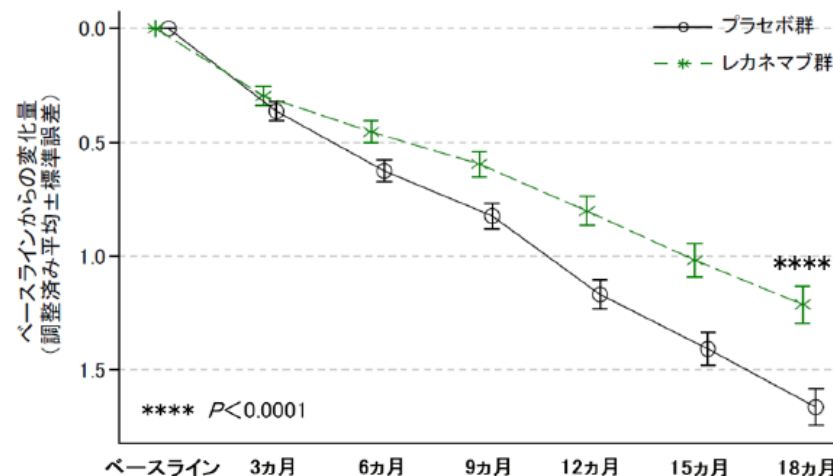


図1: CDR-SBのベースラインからの変化量(FAS+, MMRM, 調整済み平均)

CDR-SB = Clinical Dementia Rating-Sum of Boxes, FAS = full analysis set, MMRM = mixed model for repeated measures.

脳内アミロイドβの時間経過

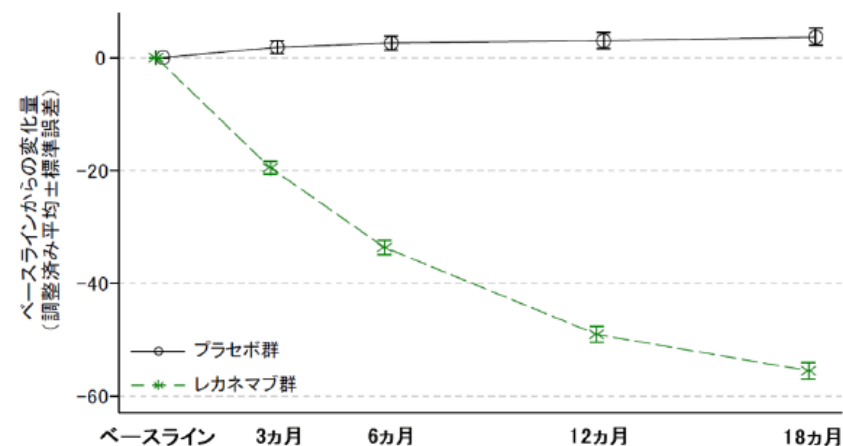


図2: アミロイド PET センチロイドスケールを指標とした脳内 Aβ 蓄積量のベースラインからの

変化量(PD 解析対象集団[アミロイド PET]MMRM, 調整済み平均)

MMRM = mixed model for repeated measures, PD = pharmacodynamic, PET = positron emission tomography

薬剤の写真は発売会社ホームページより。下段のグラフはレカネマブ最適使用推進ガイドラインより。